



高松第三行政区 ふるさと地域協議会

■地区名(所在地): 高松第三行政区(岩手県花巻市)

■面積・戸数: 約100ha・約70世帯

団体の概要

団体の種別: 地域づくり団体
団体全体の予算: 年間50万円(その内まちなみの植栽維持管理などに年間20万円、活動費30万円)
外部委託: なし
共有地/共有施設: なし
まちなみのルール: なし

維持管理活動の概要

まちなみ形成の時期

1,000年ほど前には現在の集落が形成されていたものと推察される。地区の南側を猿ヶ石川が流れ、居住地を里山が囲む純農村地帯である。JR新花巻駅まで車で10分、花巻空港や高速道花巻空港インターチェンジまで15分と、比較的交通の便に恵まれたところである。

活動の開始時期と活動の経緯

活動の開始時期は2008年。過疎化・高齢化に伴う地域コミュニティの低下などの課題を抱えていた地域で、地域づくりのワークショップや研修会を開催。ワークショップで名勝や旧跡の整備保全の必要性が出され、全世帯参加で荒廃していた猿ヶ石川の河川敷や里山などの手入れが行われるようになった。

その結果、「猿ヶ石川の立岩」が花巻八景に、「三川長根の種まき桜」と「小鍋ヶ清水の桜」が花巻市文化財に選定されるなどの成果が現れている。この取り組みは、行政区全体の景観形成活動に発展し、整備場所の拡大につながっている。

現在の活動状況

設立以来、「みんなが主役、みんなで実践」を合言葉に、地域コミュニティの活性化を目標に、「景観形成、農福連携、6次産業化、交通弱者の外出支援、配食サービス」を行っている。

地域づくり活動が始まった2008年以降、整備された環境に魅力を感じて移住者が来るようになり、2018年現在で移住者は約70世帯中10世帯になった。

幸いなことに、移住者も「景観形成」に理解を示し、共同作業に積極的に参加している。特に、2016年からドローンを活用して空から景観点検を行い、撮影した映像を活用して、地域住民の景観形成の意識の向上と作業場所の選定を行っている。また、この映像は、県外に住んでいる孫や親戚へのビデオレターとして送り、好評を得ている。

今後の活動方針

景観からの地域づくり活動によって、移住者が増えるとともに、関係人口の創出につながっている。協議会の設立時の関係人口(交流人口)はゼロだったが、1,710人(2018年度実績)まで増えている。

昨年度は、足元にある資源の掘り起こしとブラッシュアップを図るために、県内外から有識者に来てもらい「地域資源調査」を実施した。

今後は、有識者からアドバイスをもらった「農から生まれる美しい景観」や、高齢者・障がい者・子どもが体験交流できる「福祉農園」を活用したモニターツアーの実施などの関係人口創出イベントを開催して、外部にアピールしながら、景観が地域の誇りにつながる取り組みを行っていく。





①山・川・水田がある高松第三行政区
 ②活動によって景観が保たれている名勝「立岩」
 ③水田風景
 ④福祉農園（野菜畑）
 ⑤園児たちとの収穫交流会
 ⑥手づくり花壇の手入れ
 ⑦交通弱者への支援
 ⑧全世代参加による景観形成活動（草刈り）
 （提出図書より一部を抜粋）